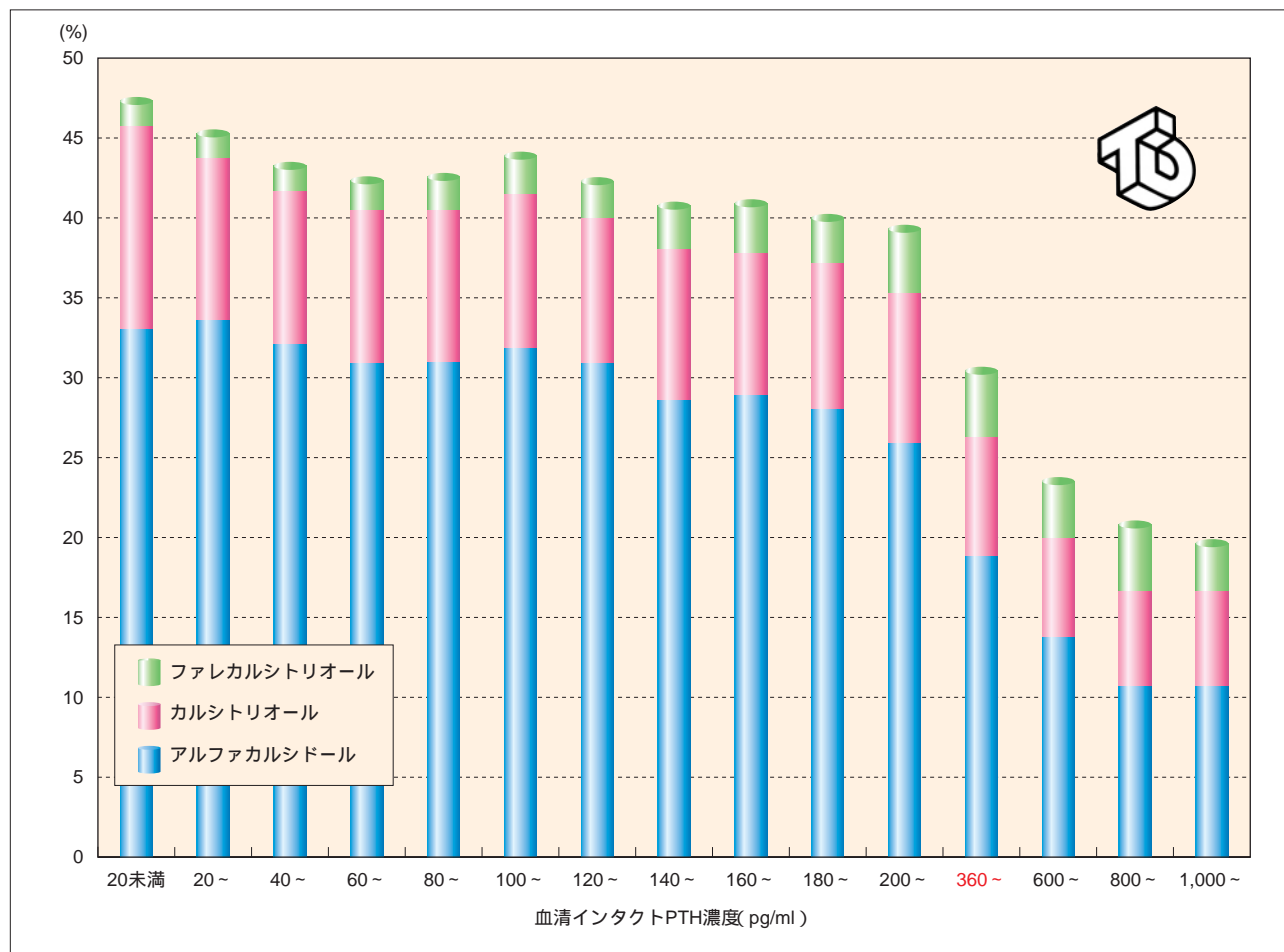


## 2) ビタミンD製剤の使用状況

(7) 血清インタクトPTH別 経口ビタミンD製剤の使用頻度 (図表35)



	20未満	20~	40~	60~	80~	100~	120~	140~	160~	180~	200~	360~	600~	800~	1,000~
アルファカルシドール	4,501	4,832	4,010	3,615	3,314	3,050	2,896	2,390	2,319	2,028	8,698	2,516	462	159	163
(%)	(33.2)	(33.6)	(32.1)	(31.1)	(31.0)	(31.8)	(30.9)	(28.7)	(28.9)	(28.1)	(25.8)	(18.7)	(13.7)	(10.8)	(10.7)
カルシトリオール	1,731	1,472	1,215	1,107	1,014	920	866	802	725	672	3,169	1,026	207	87	89
(%)	(12.8)	(10.2)	(9.7)	(9.5)	(9.5)	(9.6)	(9.2)	(9.6)	(9.0)	(9.3)	(9.4)	(7.6)	(6.2)	(5.9)	(5.9)
ファレカルシトリオール	200	218	182	185	213	225	214	217	238	211	1,374	566	121	63	49
(%)	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.6)	(2.0)	(2.3)	(2.3)	(2.6)	(3.0)	(2.9)	(4.1)	(4.2)	(3.6)	(4.3)	(3.2)
その他	112	105	86	71	53	63	46	40	37	50	167	47	3	3	4
(%)	(0.8)	(0.7)	(0.7)	(0.6)	(0.5)	(0.7)	(0.5)	(0.5)	(0.5)	(0.7)	(0.5)	(0.4)	(0.1)	(0.2)	(0.3)
使用していない	6,976	7,687	6,935	6,578	6,058	5,305	5,319	4,844	4,674	4,231	20,170	9,182	2,548	1,152	1,209
(%)	(51.4)	(53.5)	(55.6)	(56.6)	(56.6)	(55.2)	(56.7)	(58.1)	(58.2)	(58.5)	(59.8)	(68.4)	(75.8)	(78.2)	(79.5)
不明	42	65	56	60	45	43	46	44	35	36	162	83	22	10	7
(%)	(0.3)	(0.5)	(0.4)	(0.5)	(0.4)	(0.4)	(0.5)	(0.5)	(0.4)	(0.5)	(0.5)	(0.6)	(0.7)	(0.7)	(0.5)

数値下のかっこ内は列方向の合計に対する%です。

### 解説

血清インタクトPTH濃度と経口ビタミンD製剤の使用状況について検討しました。

血清インタクトPTH濃度が200pg/mlを越えたあたりから経口ビタミンD製剤の使用頻度は低下を示しており、二次性副甲状腺機能亢進症に対して他の治療法へ移行していることが推察されます。

また、血清インタクトPTH低値例で経口ビタミンD投与頻度が高い傾向を認めました。最近、PTH低値による低回転骨の問題もいわれており、今後PTH低値例に対するビタミンD投与の指標が検討されるべきと思われます。ただし、今回の調査はビタミンDによる治療下の値であり、投与開始基準とは異なります。